

祝：園芸学部創立100周年記念事業報告

鈴木 邦彦

1909年、松戸戸定が丘に千葉県立園芸専門学校が創立されて今年でちょうど100周年を迎えました。

戸定会と園芸学部で100周年記念事業会を結成し、とくに戸定会のOBの諸先輩方を中心に園芸展示合同委員会を作り、準備をすすめてきました。

記念事業を推進するために記念事業募金委員会を発足して、目標額2億円をベースに基本事業、補助事業に配分して、各種事業の当該委員会で検討を進めてきました。

基本事業の柱として、記念館の建築を計画しておりましたが、昨年末降ってわいたような園芸学部の西千葉への移転問題が発生しました。本件については、園芸学部のある松戸市の市民からも反対署名運動等もあり、結果今年6月、正式に教授会で中止が決まり、改めて記念館建設に取り組む事となりました。

そこで、今回の記念式典とは切り離して推進する事となり、募金事業活動も当初平成22年3月末までを1年延長して平成23年3月末までとし、更なる募金協力をお願いしております。

基本事業関連として、

- 1) 記念式典・祝賀会
- 2) 園芸学部100周年記念誌の発行
- 3) 園芸展示会

◇第1会場：「園芸学部の歩みと未来」

園芸学部A棟1階製図室

園芸学部キャンパス庭園など

◇第2会場：「江戸時代の園芸文化史

～岩佐亮二コレクションを中心に～」

松戸市戸定歴史館

- 4) 100周年記念に併せて松戸市民及び学部教員有志による「与謝野晶子の歌碑建立」

◇建立場所：園芸学部A棟 ヒマラヤ杉付近

が進められました。その内容を以下、ご報告させていただきます。

園芸展示オープンセレモニー

100周年記念事業のスタートとして、園芸展示会が、平成21年10月16日(金)～11月15日(日)、キャンパスの隣にある松戸市戸定歴史館で開催。10月16日(金)、松戸市長、市議会議長、学部長、戸定会会長の臨席のもと、テープ



園芸展示会場テープカット（10月16日）



会場をご覧になる天皇・皇后両陛下（10月16日）

カットが行われました。

なお当日、開催前に天皇・皇后両陛下の行幸啓賜りました(写真提供：100周年記念事業会)。戦時中の昭和18年、皇太子時代に学部内に行啓され、芝生の庭園が「サツマイモ畑」であった時代の記憶を懐かしく語られたそうです。

本学部には、大正天皇、昭和天皇、今上天皇が3代にわたって、皇太子時代に行啓されておりますが、天皇・皇后両陛下がおそろいでおいでになったのは初めてのことです。

園芸展示会の内容については、後半にご報告させていただきます。

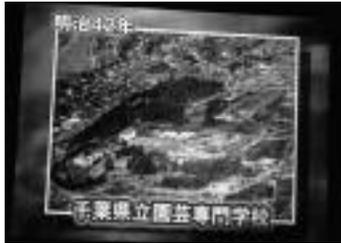
園芸学部創立100周年記念式典・祝賀会

10月29日(木)：午前11時～12時、松戸市民会館にて招待者、OB、大学関係者約750名の方々が参加されました。

開会に先立ち、去る10月22日に園芸学部4年生の荻野友花里さんが殺害、放火された事件を受けて、会場参加



記念式典会場風景（10月29日）



「園芸学部100年の歩み」ビデオより

が贈呈、内容が紹介されました。

基本事業内容として、①100周年記念館の新築(平成23年完成予定)、②100周年記念広場及びフランス式庭園等各種庭園の改修、③100周年記念誌の発行と補助事業として学術振興事業<園芸産業に関わる企業との共同研究醸成を目的とした学部中堅・若手教員の研究助成>が報告、説明されました。

その後、「園芸学部100年の歩み」をまとめた内容がビデオ上映されました。

学部キャンパス内の庭園風景、実習風景、圃場風景や当時最新式のガラス温室などが画面に紹介され、会場から思わず「懐かしい」との声が聞こえてきました。

祝賀会は、場所を園芸学部体育館に移し、午後1時より、荻野友花里さんの事件のこともあり、祝賀会の催しを変更して懇親会に切り替えてスタート。

会場では、多くの諸先輩方、大学関係者方々の懐かしい顔ぶれにいくつもの輪ができて大いに盛り上がりを見せておりました。

花業会会員も多くの方が参加されていましたが、遠くからはハワイ・マウイ島から武田和男さん、岩手県から吉池



祝賀会会場

者全員で、冥福と早い解決を願い、黙祷を捧げました。

挨拶として、千葉大学斎藤康学長、100周年記念事業会伊東正会長、祝辞を松戸市川井敏久市長、文部科学省の徳永保局長よりお祝いの言葉をいただきました。

また、伊東100周年記念事業会会長より菊地園芸学部学部長に事業会目録

貞蔵さん、山口県から小田善一郎さんなど、懐かしい顔を見せ、時間が経つのを忘れての2時間でした。

与謝野晶子歌碑建立

松戸市民を中心に昨年、「与謝野晶子の歌碑を建てる1,000人の会」が設立され、与謝野晶子が松戸の丘で詠まれた短歌60首のなかから市民による人気投票で2首が選ばれたものです。歌碑は、旧A棟の木造講堂の礎石を利用して、地元デザイン作家の協力で赤御影に刻まれました。

戸定が丘歴史公園と大学キャンパスを結んで散策する「松戸市緑の回廊」の新しいシンボルとして、学内キャンパスのA棟脇にあるヒマラヤ杉の下に据付けられ100周年記念に花を添えるものとなりました。

～丘の上雲母の色の江戸川の

見ゆるあたりの一むらの罌粟～

～うすものの女の友の待ちえたる

松戸の丘のひなげしの花～



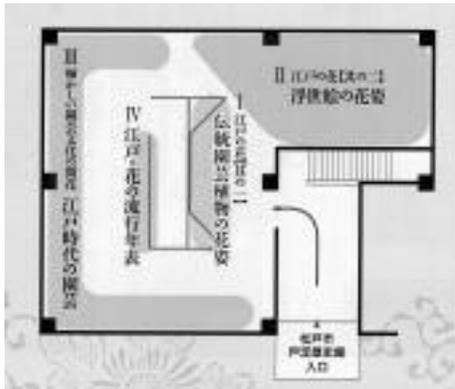
与謝野晶子歌碑除幕式(11月1日)

園芸学部創立100周年記念展示会 テーマ展示「江戸時代の園芸文化史」 ～岩佐亮二コレクションを中心に～

テーマ展示は、故岩佐亮二名誉教授が研究されていた浮世絵、関連文献・資料が、千葉大学附属図書館および千葉県立中央図書館に収められておりましたので、これらの文献・資料を中心にして、展示会内容が組み立てられました。

テーマ展示監修には、横井政人千葉大学名誉教授が当たられ、園芸展示第2小委員会を発足し、野口博正委員長を中心に、小笠原亮氏、鳥居恒夫氏、花業会幹事の田中桃三氏らの協力で、全体構想、具体的内容に尽力いただきました。

展示は、松戸市戸定歴史館で、10月16日(金)～11月15日(日)に開館されました。



会場展示案内図

展示内容(リーフレットより抜粋)

【Ⅰ】江戸の花〔其のⅠ〕伝統園芸植物の花姿

日本の園芸は江戸時代に世界に類を見ないほどの輝かしい発展を見せました。最大の特徴は、「変わり花」や「斑入り・変わり葉」と呼ばれる奇妙ともいえる花や葉をもつ特異な品種を園芸植物としてつくり出したことです。

として、万年青や松葉蘭などを写真パネルで紹介。

【Ⅱ】江戸の花〔其のⅡ〕浮世絵の花姿

岩佐亮二千葉大学名誉教授は、江戸時代の園芸史の研究をライフワークとされました。絵の中に描かれた植物に注目して収集された浮世絵には、当時の園芸文化が鮮やかな色彩で詩情豊かに表現されています。

と、貴重なコレクションを中心に江戸の園芸文化史を紹介。



江戸時代の園芸展示風景

【Ⅲ】輝かしい園芸文化の開花 江戸時代の園芸

わが国では花を觀賞し歌を詠むという文化が定着しました。それは、「万葉集」に植物を読んだ歌が多く見られるように、身分に関係なく様々な階層まで広がっていきました。平安時代以降、中国園芸を模範とし、日本独自の

創造分野が開かれ、改良品種の出現と共に花卉園芸文化の発展が始まり、江戸時代には世界の花卉園芸文化の中で最も輝かしい一時期を迎えることとなりました。

1. はやり花の発生

「寛永の椿」が流行の最初と言われています。江戸時代初期には、大名から庶民まで幅広い層に椿愛好熱が広がりました。日用品から調度品類まで様々な物に椿が描かれた「百椿集」で、愛好熱の高さを紹介。

2. 園芸の広がり

園芸を愛した初代将軍家康。椿を愛した二代将軍秀忠。盆栽を愛した三代将軍家光。最高権力者である初代三代の将軍が「草木」を愛した事から江戸時代の世界に類を見ない園芸の発展が始まったことを紹介。

3. 大名と園芸

花好きの将軍の意向を受け各藩は奇種の入手に奔走し、独自の品種改良を行いました。園芸繁栄の下地となった武家の花づくりや、大規模な都市改造によって一大庭園都市となった江戸園芸発展の背景を紹介。

4. 園芸隆盛の原動力・植木屋と本草書

上流階級から生まれた園芸趣味は、江戸に集められた上方の庭師と江戸、そして領国の庭師や植木屋の繁盛、園芸書の出版により庶民にまで広がりました。園芸隆盛の原動力となった植木屋や園芸書の様相を紹介。

5. 八代将軍吉宗の開放政策と園芸

庶民に花の見所を開放し、空前の花ブームを起こした八代将軍吉宗。本草書を奨励して殖産振興を図り、西洋博物学の解禁で自然科学としての博物学を隆盛させたようすを紹介。

6. 太平の世の庶民文化の開花と自然愛好の潮流

江戸中期の世情の安定と経済の発展で、財力を蓄えた庶民。庭を造るものが現れるなど、都市には、自然を求める機運が起こりました。庶民が花木を楽しむ姿をはじめ庭園の様子や季節のイベントなど、庶民に広がった庶民に広がった自然愛好を紹介。

7. 公園設計と博物学の先駆者松平定信

寛政の改革を行った松平定信は、政治・経済の分野のみならず、思想・文学・芸術・園芸などにおいても多大な業績を残しました。名造園家として、博物学の先駆者としての定信の業績を紹介。

8. 花菖蒲の品種改良に打ち込んだ生涯松平定朝

旗本・松平定朝は、花菖蒲一筋に品種改良を重ね、晩年までに会心の百余種を作出しました。定朝が、生涯を通して記した「花鏡」と厳選した秀花を図写した「花菖蒲培養録草稿」を紹介。

9. 身分を超えたつながりを生んだ園芸

江戸文化の大きな特徴に、庶民化(民主化)があります。「赦鞭会」という博物家の集まりが結成され、園芸の世界で階級を超えた趣味のつながりが現れました。このようなつながりによって様々な本草書や博物図譜などが出版されたことを紹介。



工芸品ともいえる植木鉢

10. 園芸への探求心もたらした大流行・大騒動

まだ見たことのない「珍種」「変わり葉」「変わり花」を追い求める探求心は品種改良の技術を高め、遺伝の特性をも見出しました。菊、朝顔、桜草を始めとし、園芸全般を時代色豊かに展開させた江戸文化的背景を紹介。

11. 園芸技術の発達

秀花新花・珍草奇木への関心の高まりの裏側では、それらを増殖するために様々な工夫がこらされました。

園芸品種ごとに専門化していった園芸書と園芸技術の進歩へとつながった立花を紹介。

12. 幻の将軍・徳川昭武と戸定邸と園芸

15代将軍徳川慶喜の実弟徳川昭武が暮らした戸定邸と園芸学部に関わりや、昭武が趣味とし撮影した写真から、戸定邸で親しまれた園芸の様子を紹介。

園芸学部創立100周年記念展示会 総括展示「園芸学部の歩みと未来」



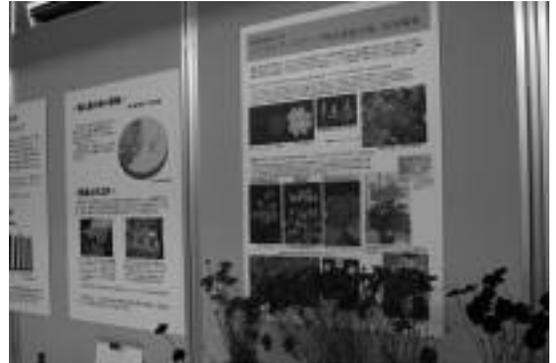
パネル展示「花卉園芸学
花卉研究の歩みと今」

園芸学部A棟の1階製図室を会場に、園芸学部の各研究室の先生方を中心に、国立大学ではわが国唯一の園芸学部100年の歩みの特徴ある教育と研究内容をパネルで紹介していました。

近代農業、園芸の発展に活躍した諸先輩方の実績をわかりやすく解説。現物で紹

介できるものはテーブルに並べて見学者に改めて研究功績を判りやすく紹介していました。

また、中央のコーナーでは、「なつかしい学部の庭園」の紹介にあわせて、「天皇・皇后陛下の園芸学部に行幸啓」を紹介されたパネルには、多くの注目を集めておりました。



パネル展示「植物細胞工学」



パネル展示「なつかしい学部の庭園」



現在のフランス式庭園